

岩川光 quena  
相川瞳 vibraphone  
西嶋徹 contrabass

Hikaru Iwakawa Trio  
with Toru Nishijima & Hitomi Aikawa  
“renacimiento”  
Japan Tour 2021

※マスクの着用を必ずお願いいたします。  
※ご入場の際、備え付け、又はご持参の消毒液にて手を消毒して下さい。

2021 09月29日(水)

開場 17:30

開演 18:00

(90分1ステージ 小休止有) (1drink=600円~)

予約 MC=5000円+2drinks order

当日 MC=5300円+2drinks order

CAFE **BEULMANS**

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail: info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、  
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を  
ご記載下さい。



## 西嶋徹

1973年 東京生まれ。5歳よりヴァイオリンを始め、高校の時にベースを始める。ジャズ、アルゼンチンタンゴを軸に、幅広い音楽性で様々なジャンルのアーティストをサポートしている。これまでに、Jazztronik、Pablo Ziegler、綾戸智恵、ウィリアムス浩子、小野リサ、カルメン・マキ、木住野佳子、喜多直毅、小松亮太、葉加瀬太郎、長谷川きよし、藤本一馬、古澤巖、ワサプロー、等のレコーディングやコンサートをサポート。現在、Cuatrocientos、三枝伸太郎 Orquesta de la Esperanza、鬼怒無月 Quinteto、大柴拓 Ensemble para Flores、吉田篤貴 EMOSTrings、などのグループに参加。2014年、ピアニスト林正樹と共に、アルバム「El retratador」をリリース、2018年、ソロアルバム「Phenomenology」をリリース。2019年より自己の弦楽カルテットを主宰している。

## 岩川光

独自の革新的な演奏技術で「ケーナの革命者」と呼ばれるケーナ奏者。音楽の原始に近づくような音作りや、複雑でありながらダイレクトに琴線に触れる楽曲に定評のある作曲家。マルチインストルメント奏者。9歳よりケーナを始め、12歳より演奏活動に入る。同時期にモダン及びバロックのリコーダーを修め、10代には作曲や指揮法も学ぶ。こうした知見と技術を活かし、前人未到と評される独自のケーナ奏法を開拓、これまでの概念を覆す演奏を展開。南米・ヨーロッパを中心に音楽祭出演やツアー公演、ディノ・サルーン、故ハイメ・トレスら世界的巨匠との共演、バロック・アンサンブル「カベラ・メディテラネア」のソリストとして参加したラジオ・フランスでの公演などを通じ、幅広い分野で国際的に高い評価を得る。録音作品も多く、その内容はバラエティに富み、国内外の専門誌で年間ベストに選出されるなど好評を博す。常に世界規模で複数のプロジェクトを展開。近年テレビや舞台の音楽録音を通じ、日本のお茶の間でもその音を耳にする機会が増えている。現代の作曲家との協働、古代楽器の演奏復元、製作者として新モデルの開発など、その活動は多岐にわたる。また南米を中心にマスタークラスの開講も多い。コロナ禍においても意欲的な制作を続け、録音作品を次々と発表。2013年よりブエノスアイレス在住。

<https://hikalucas.wixsite.com/hikaruiwakawa>

## 相川瞳

2006年、東京藝術大学音楽学部器楽科打楽器専攻卒業。幼少よりピアノ、中学高校は東邦音楽大附属のピアノ科在籍。16歳より本格的に打楽器を学ぶ。ブルガリアで開催されたプロヴディフ国際打楽器コンクール DUO 部門にて2位入賞。(1位なし) 2013年大晦日、「大友良英 with あまちゃんスペシャルビッグバンド」のメンバーとして、NHK紅白歌合戦に出演。2017年6月、NHK-FM『リサイタル・ノヴァ』にソリストとして出演。2019年6月、島根県立石見美術館グラントワにてリズム、打楽器のワークショップを行う。坂東玉三郎、岩城滉一、椎名林檎、渡辺えり、Flower、真琴つばさ、大鳥れい、涼風真世、姿月あさと、蘭寿とむらのレコーディング、舞台、アーティストサポート、ミュージカル、現代音楽、などの活動を展開する他、作曲、編曲、ピアノ伴奏なども手がける。ジャンルを問わず、マルチな女性パーカッショニストとして活動中である。